

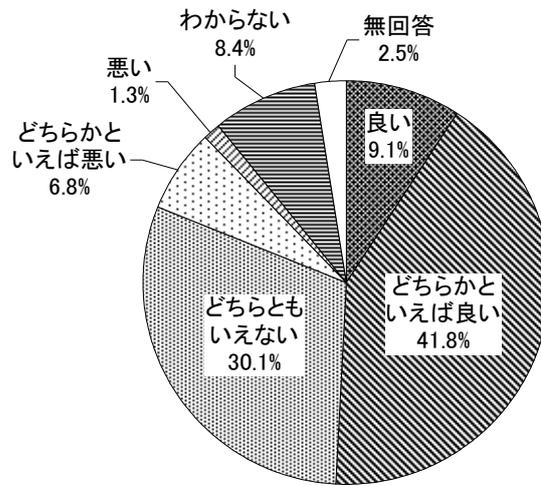
12 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況

問32 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

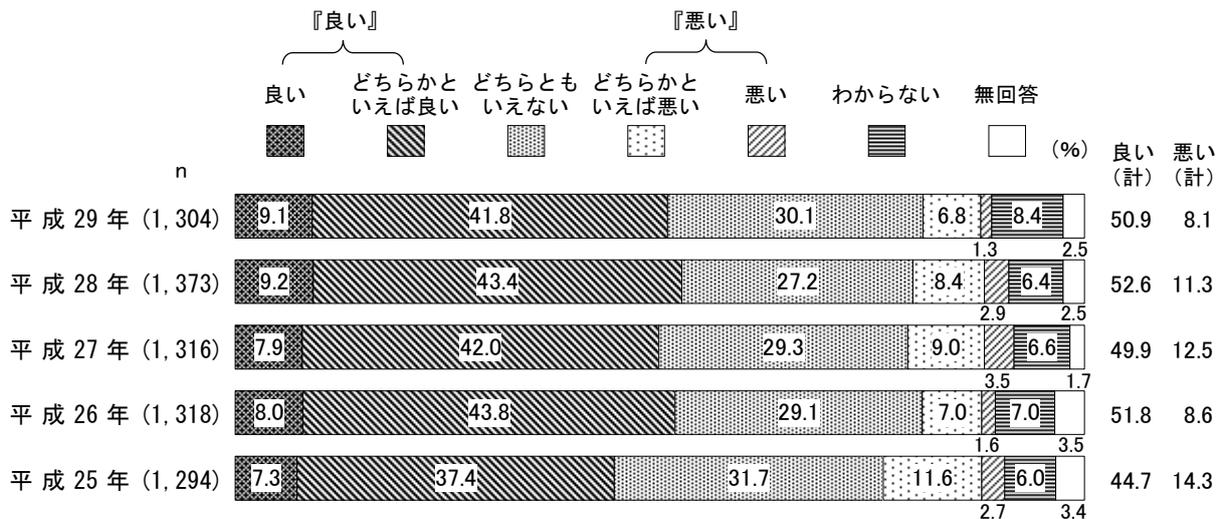
[n=1,304]

1 良い	9.1%	4 どちらかといえば悪い	6.8%
2 どちらかといえば良い	41.8%	5 悪い	1.3%
3 どちらともいえない	30.1%	6 わからない	8.4%
		(無回答)	2.5%



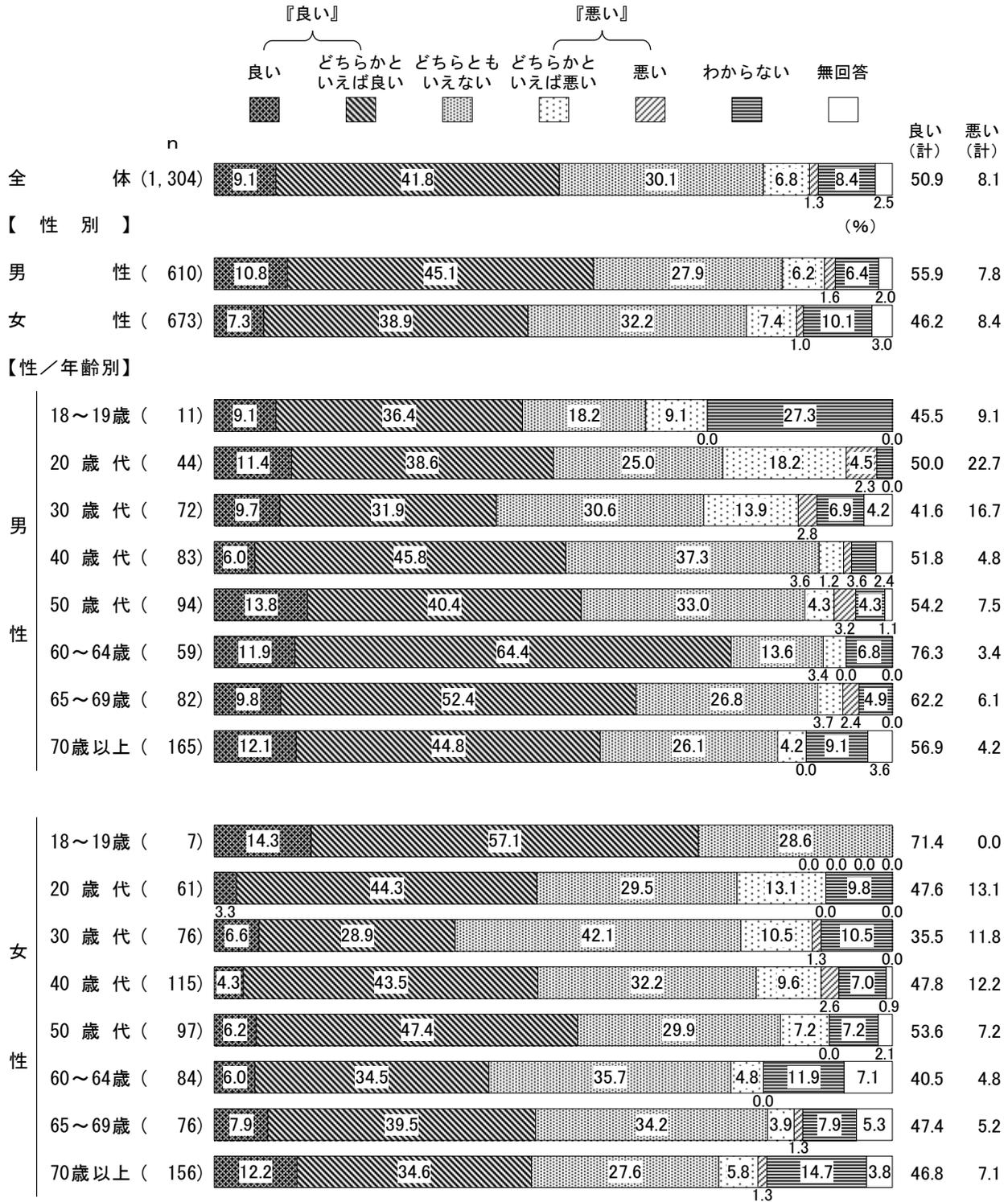
(n=1,304)

全体でみると、「良い」(9.1%)と「どちらかといえば良い」(41.8%)の2つを合わせた『良い』(50.9%)はほぼ5割となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(6.8%)と「悪い」(1.3%)の2つを合わせた『悪い』(8.1%)は1割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(30.1%)は3割となっている。



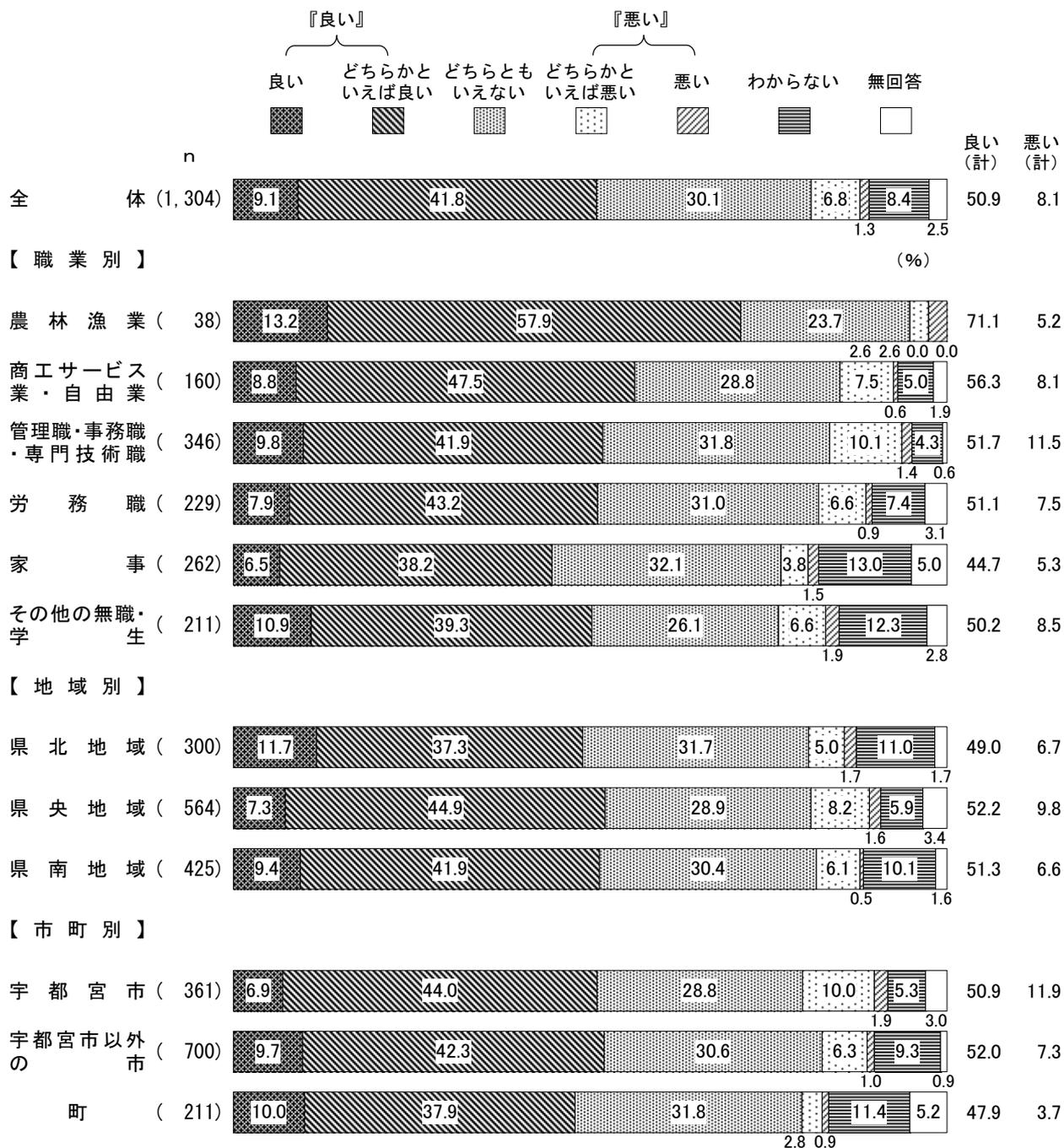
過去の調査結果と比較すると、『悪い』が前回(平成28年)より3.2ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『良い』では〈男性〉(55.9%)が〈女性〉(46.2%)より9.7ポイント高くなっている。
 性／年齢別で見ると、『良い』では〈男性60～64歳〉が76.3%、〈男性65～69歳〉が62.2%と高くなっている。一方、『悪い』では〈男性20歳代〉が22.7%、〈男性30歳代〉が16.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『良い』では〈農林漁業〉が71.1%と高くなっている。一方、『悪い』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が11.5%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

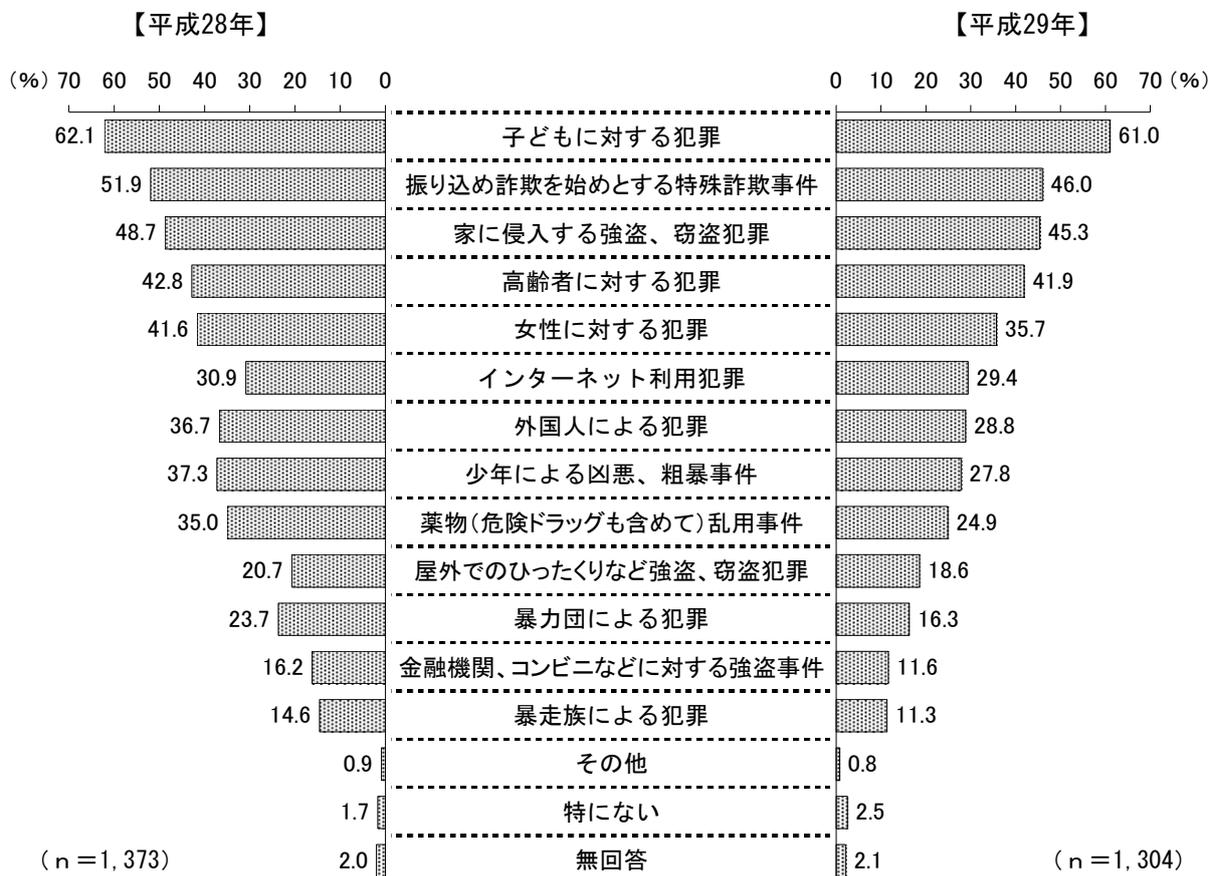
市町別でみると、『悪い』では〈宇都宮市〉が11.9%と高くなっている。

(2) 不安を感じる犯罪

問33 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,304]

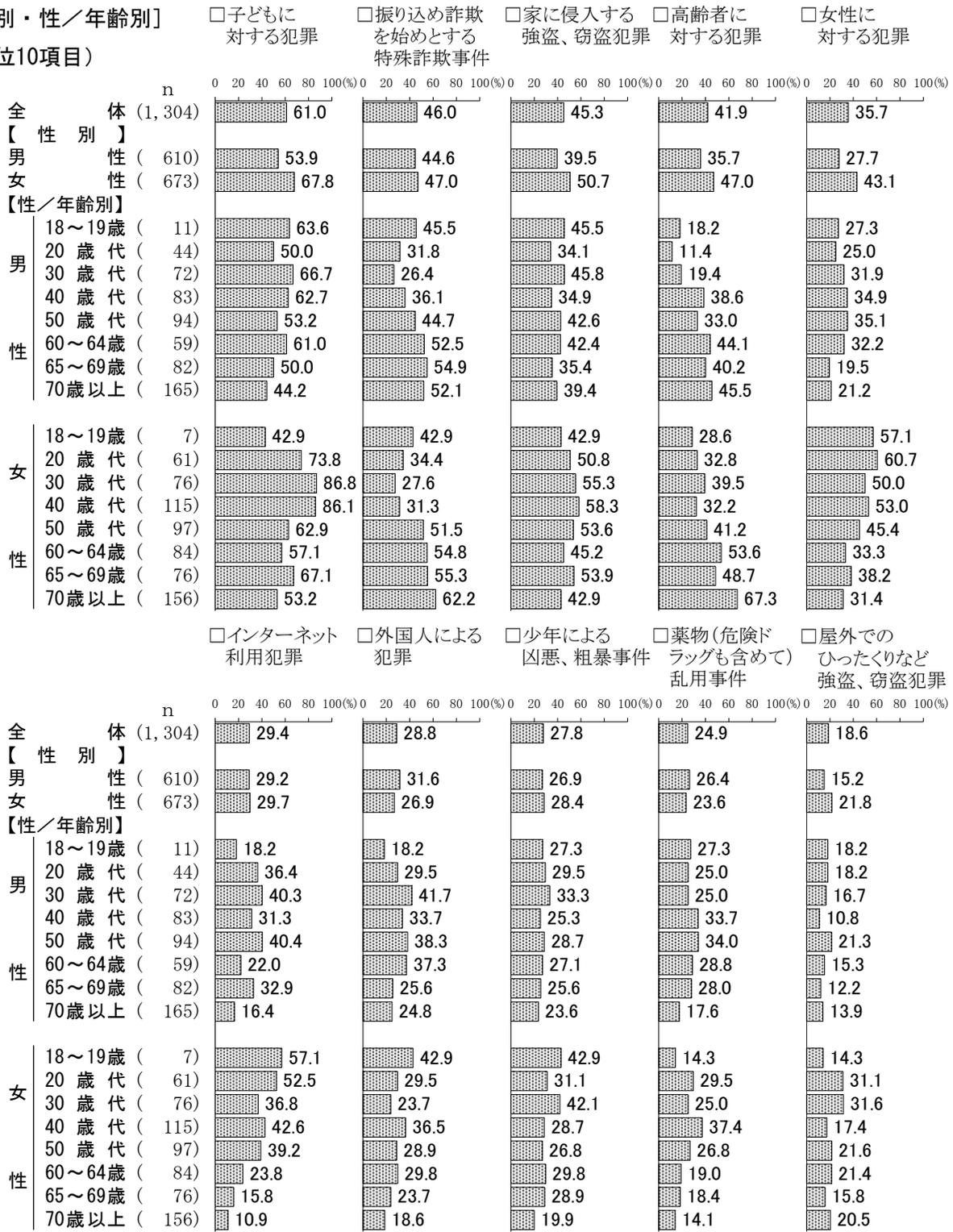
1	子どもに対する犯罪	61.0%	8	暴力団による犯罪	16.3%
2	女性に対する犯罪	35.7	9	暴走族による犯罪	11.3
3	高齢者に対する犯罪	41.9	10	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	45.3
4	振り込め詐欺を始めとする 特殊詐欺事件	46.0	11	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	18.6
5	金融機関、コンビニなどに対する 強盗事件	11.6	12	薬物(危険ドラッグも含めて)乱用事件	24.9
6	少年による凶悪、粗暴事件	27.8	13	インターネット利用犯罪	29.4
7	外国人による犯罪	28.8	14	その他	0.8
			15	特にない	2.5
				(無回答)	2.1



全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(46.0%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(45.3%)、「高齢者に対する犯罪」(41.9%)、「女性に対する犯罪」(35.7%)の順となっている。

前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「薬物(危険ドラッグも含めて)乱用事件」が10.1ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が9.5ポイント、「外国人による犯罪」が7.9ポイント、「暴力団による犯罪」が7.4ポイント、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」が5.9ポイント、「女性に対する犯罪」が5.9ポイント、それぞれ減少している。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)

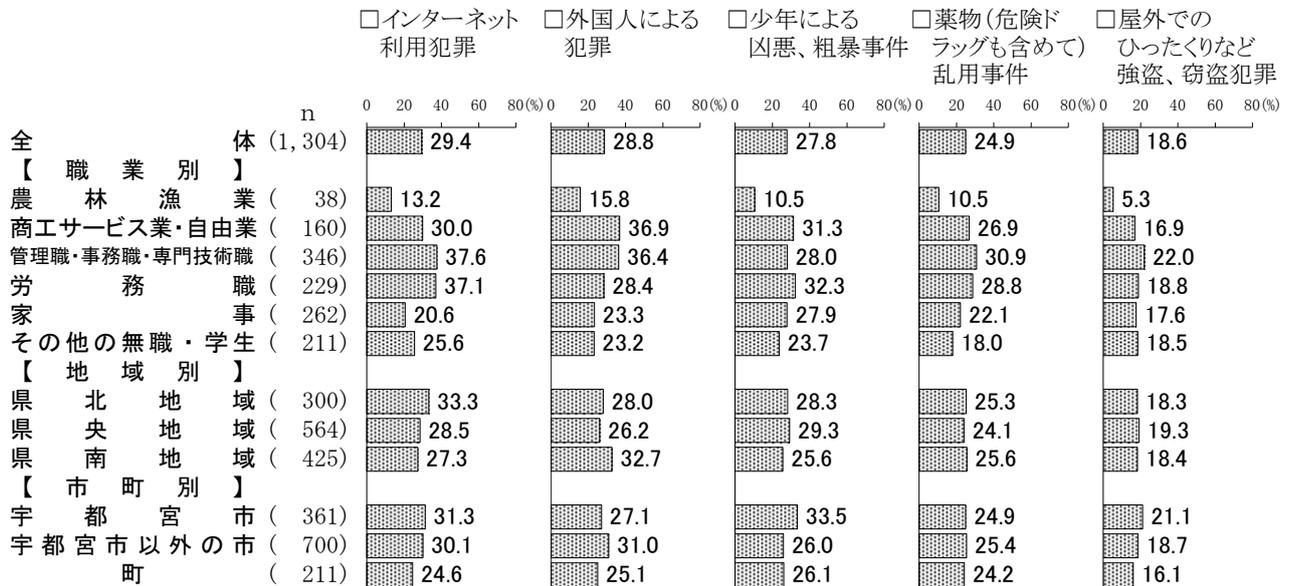
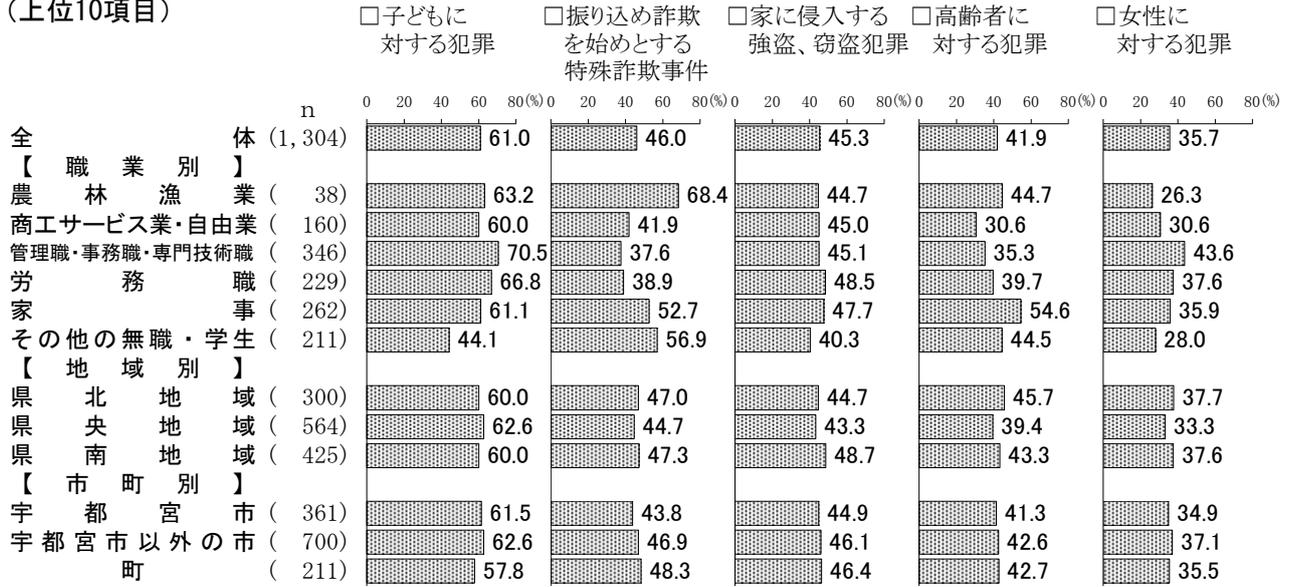


性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(43.1%)が〈男性〉(27.7%)より15.4ポイント高くなっている。「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(67.8%)が〈男性〉(53.9%)より13.9ポイント高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性〉(47.0%)が〈男性〉(35.7%)より11.3ポイント高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(50.7%)が〈男性〉(39.5%)より11.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が86.8%、〈女性40歳代〉が86.1%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が62.2%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が67.3%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が60.7%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性20歳代〉が52.5%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が70.5%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈農林漁業〉が68.4%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈家事〉が54.6%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が43.6%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が37.6%、〈労務職〉が37.1%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈商工サービス業・自由業〉が36.9%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が36.4%と高くなっている。

地域別でみると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈県南地域〉が48.7%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈県北地域〉が45.7%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈県南地域〉が32.7%と高くなっている。

市町別でみると、「少年による凶悪、粗暴事件」では〈宇都宮市〉が33.5%と高くなっている。

(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

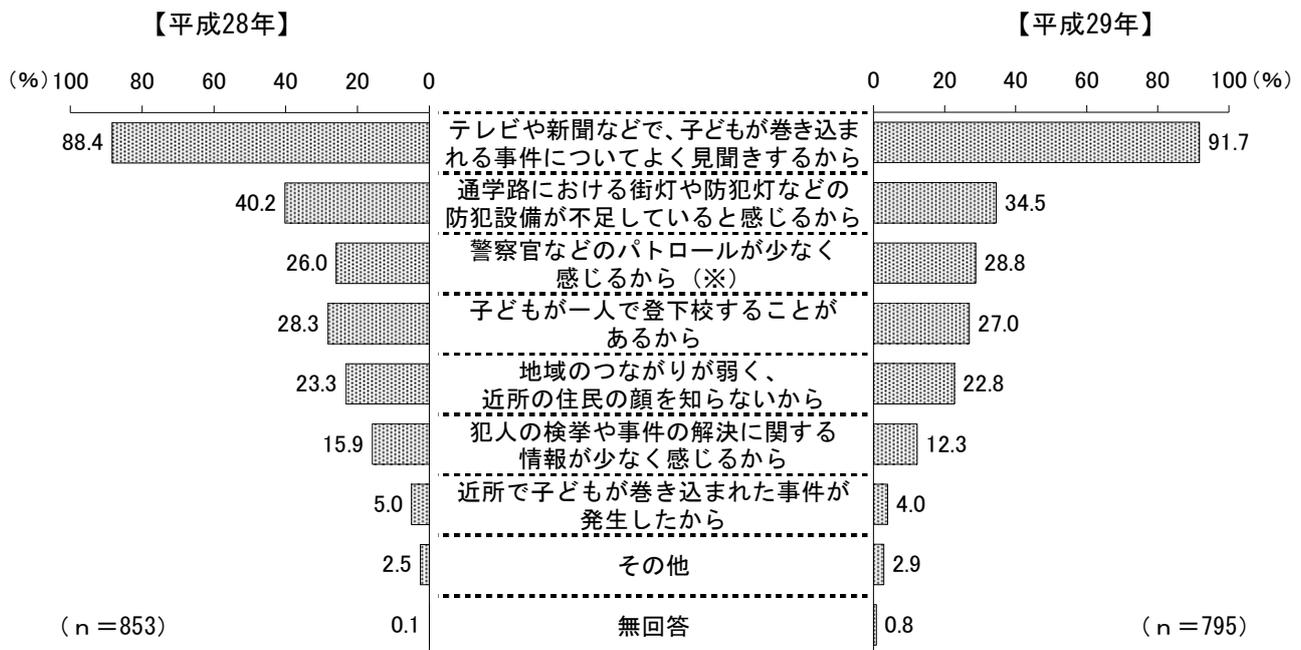
(問33で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問33-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=795]

1	テレビや新聞などで、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから	91.7%
2	通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから	34.5
3	子どもが一人で登下校することがあるから	27.0
4	地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから	22.8
5	近所で子どもが巻き込まれた事件が発生したから	4.0
6	警察官などのパトロールが少なく感じるから	28.8
7	犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから	12.3
8	その他	2.9
	(無回答)	0.8

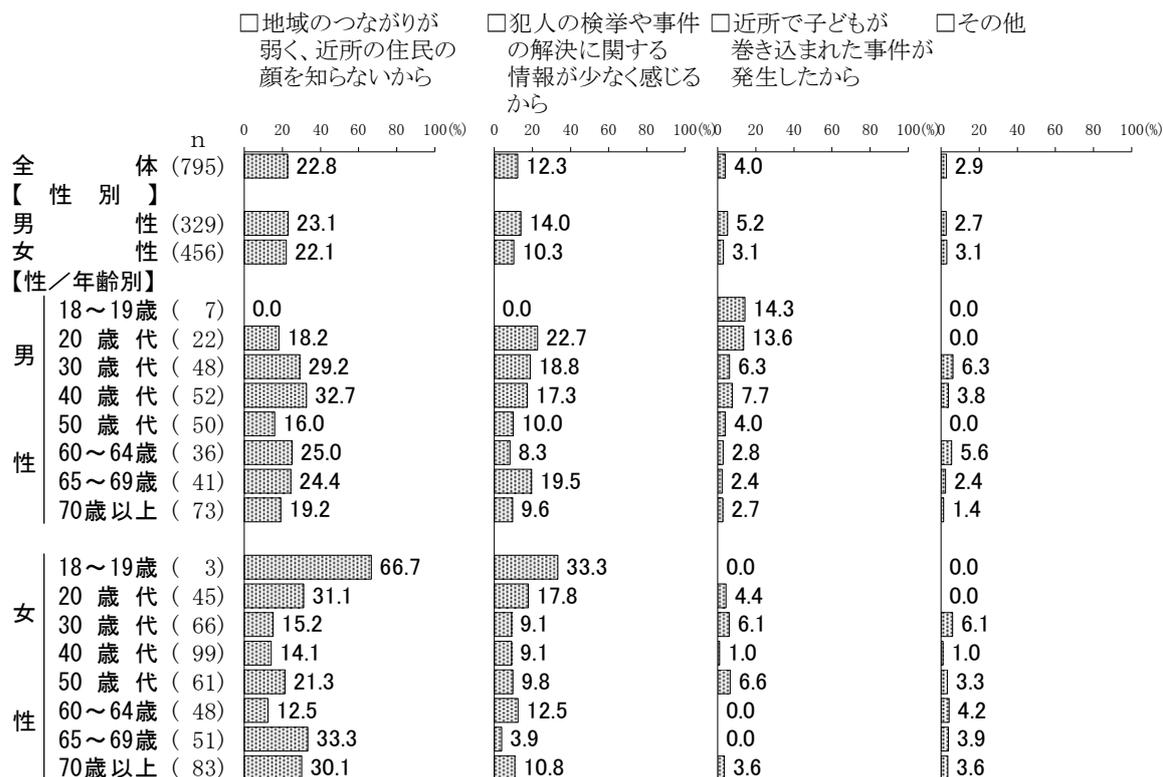
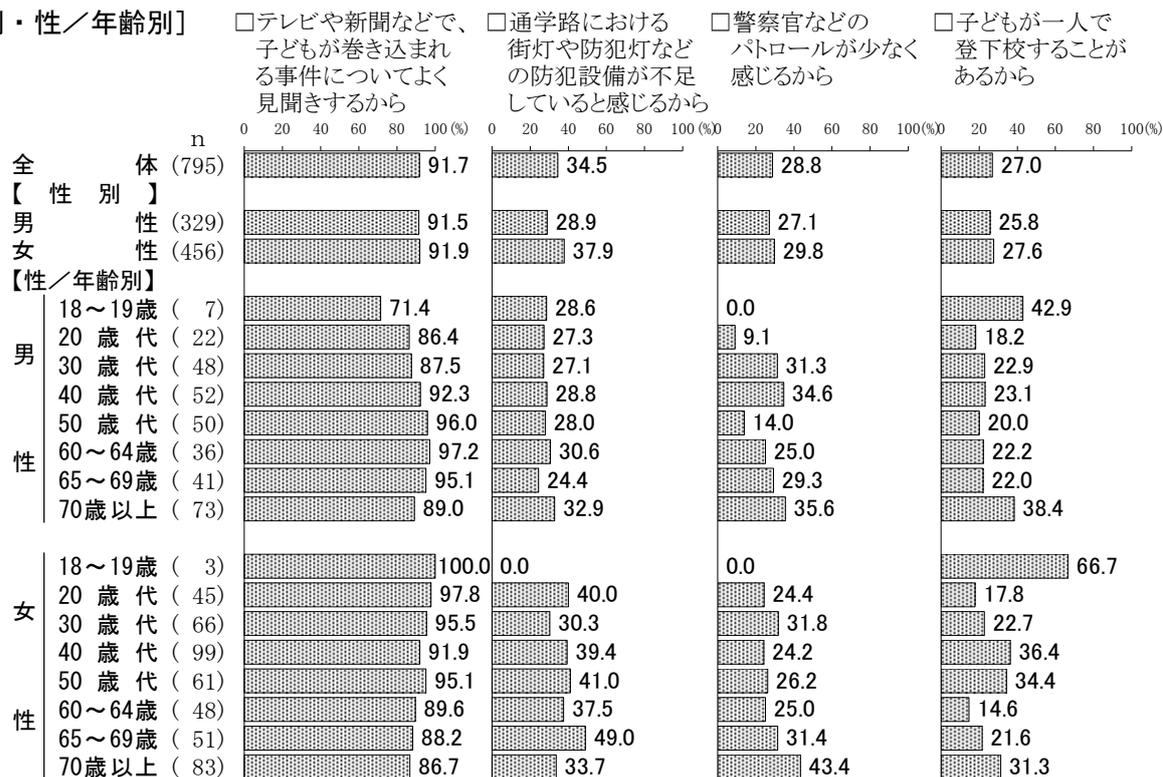


(※) 「警察官などのパトロールが少なく感じるから」の選択肢は、平成28年では「警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」としていた。

全体でみると、「テレビや新聞などで、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(91.7%)が9割を超えて最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(34.5%)、「警察官などのパトロールが少なく感じるから」(28.8%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(27.0%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(22.8%)の順となっている。

前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「テレビや新聞などで、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」が3.3ポイント増加している。一方、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」が5.7ポイント、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから」が3.6ポイント、それぞれ減少している。

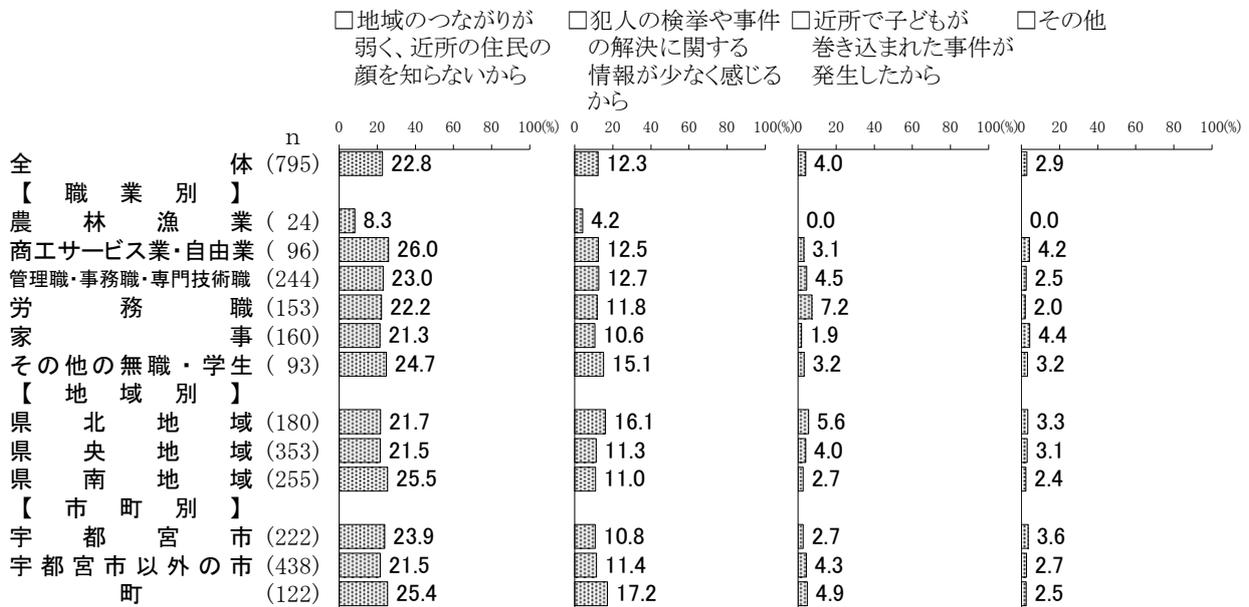
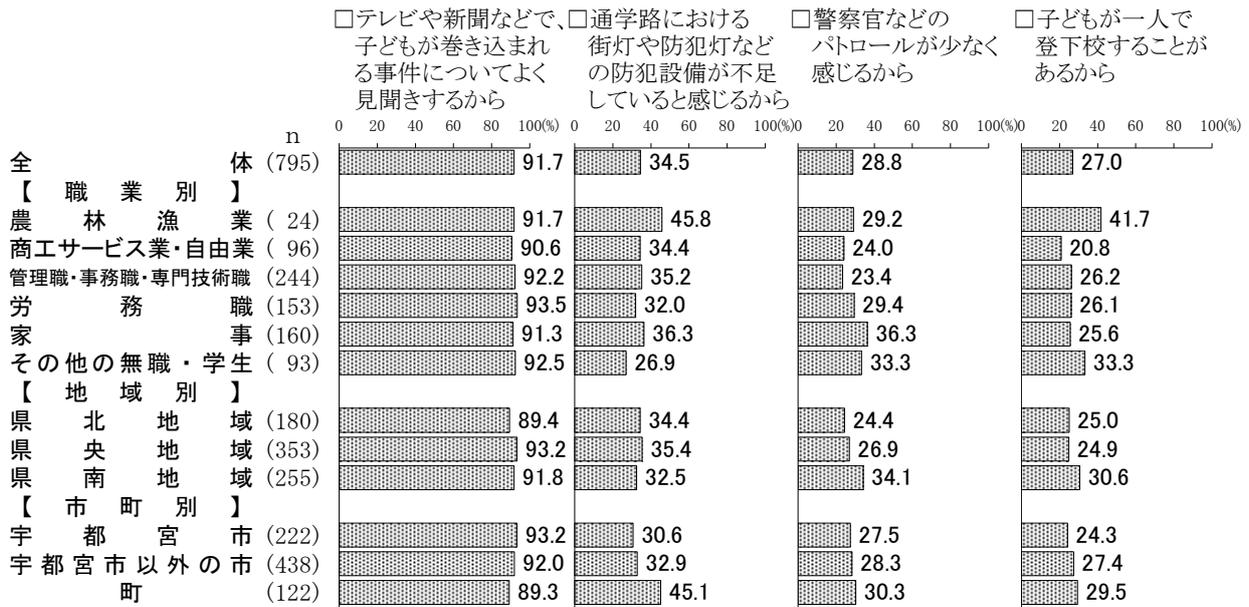
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性〉(37.9%)が〈男性〉(28.9%)より9.0ポイント高くなっている。「犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから」では〈男性〉(14.0%)が〈女性〉(10.3%)より3.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性65～69歳〉が49.0%と高くなっている。「警察官などのパトロールが少なく感じるから」では〈女性70歳以上〉が43.4%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈男性70歳以上〉が38.4%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈農林漁業〉が45.8%と高くなっている。「警察官などのパトロールが少なく感じるから」では〈家事〉が36.3%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈農林漁業〉が41.7%と高くなっている。

地域別でみると、「警察官などのパトロールが少なく感じるから」では〈県南地域〉が34.1%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈県南地域〉が30.6%と高くなっている。

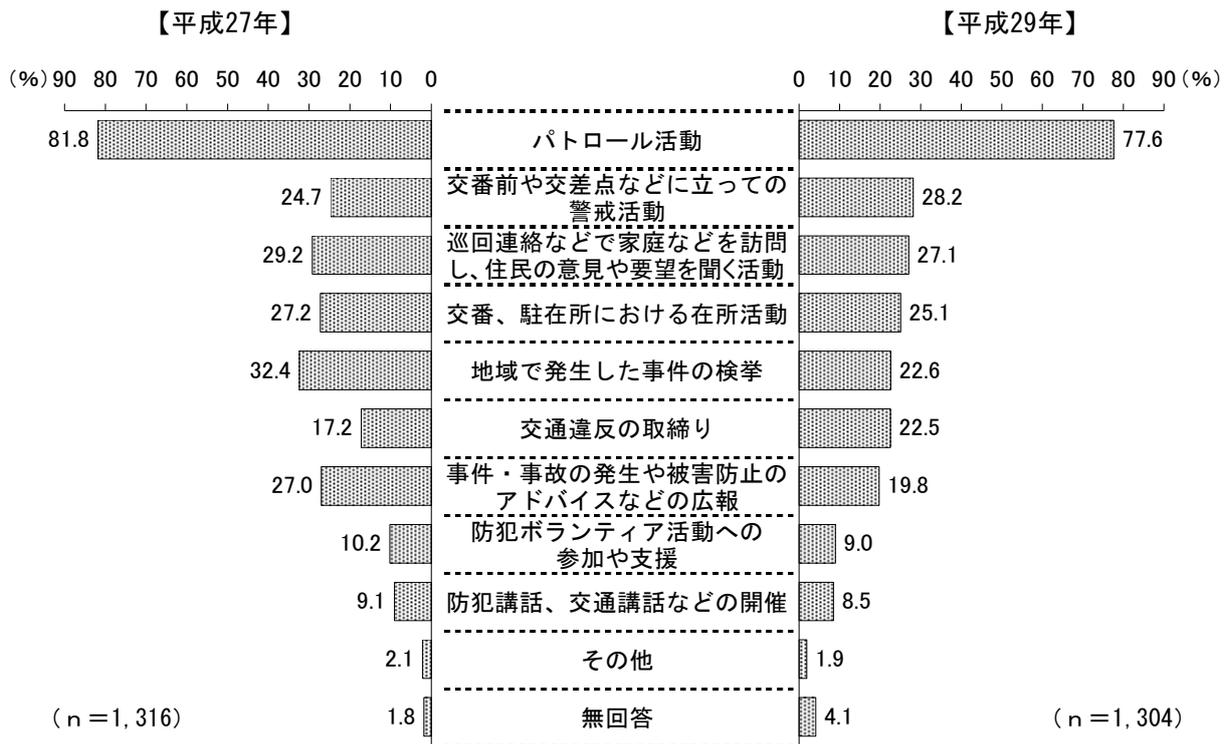
市町別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈町〉が45.1%と高くなっている。

(3) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問34 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,304]

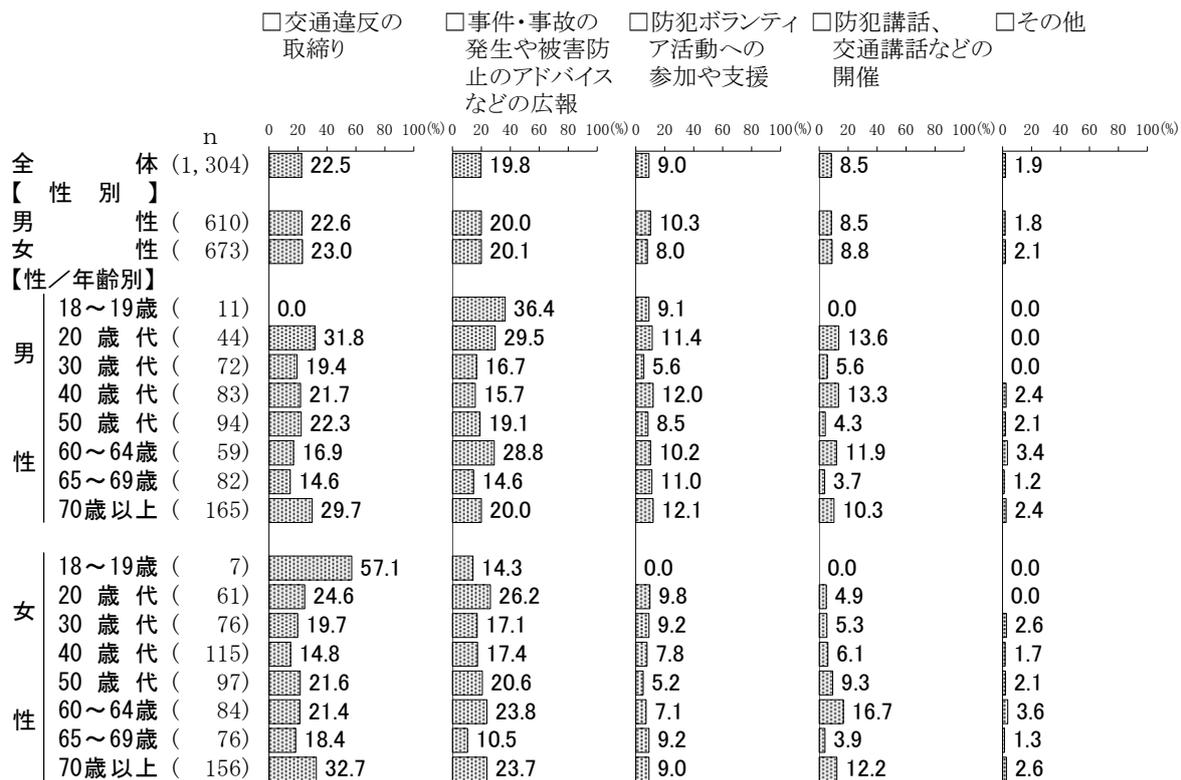
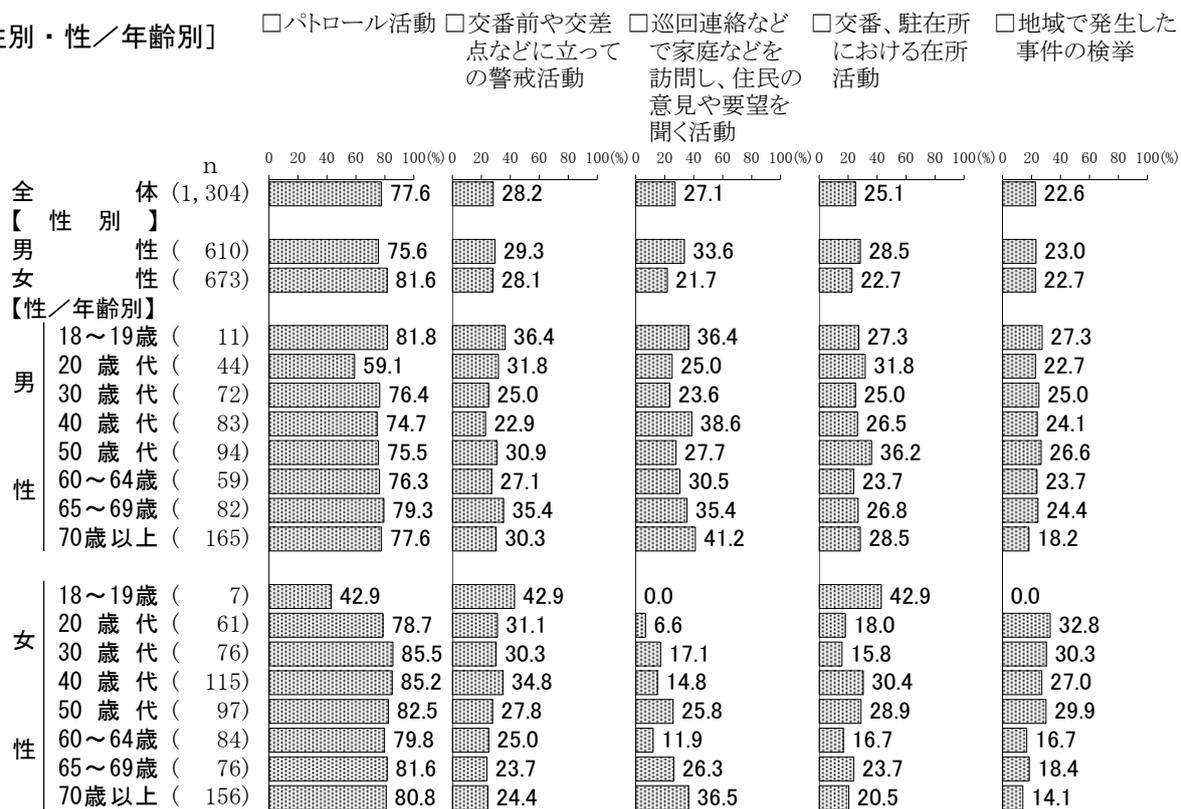
1	パトロール活動	77.6%
2	交番、駐在所における在所活動	25.1
3	巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	27.1
4	交番前や交差点などに立っての警戒活動	28.2
5	事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報	19.8
6	地域で発生した事件の検挙	22.6
7	交通違反の取締り	22.5
8	防犯講話、交通講話などの開催	8.5
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	9.0
10	その他	1.9
	(無回答)	4.1



全体で見ると、「パトロール活動」(77.6%)が8割近くで最も高く、次いで「交番前や交差点などに立っての警戒活動」(28.2%)、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(27.1%)、「交番、駐在所における在所活動」(25.1%)、「地域で発生した事件の検挙」(22.6%)、「交通違反の取締り」(22.5%)の順となっている。

平成27年の調査結果と比較すると、「交通違反の取締り」が5.3ポイント、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」が3.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「地域で発生した事件の検挙」が9.8ポイント、「事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報」が7.2ポイント、「パトロール活動」が4.2ポイント、それぞれ減少している。

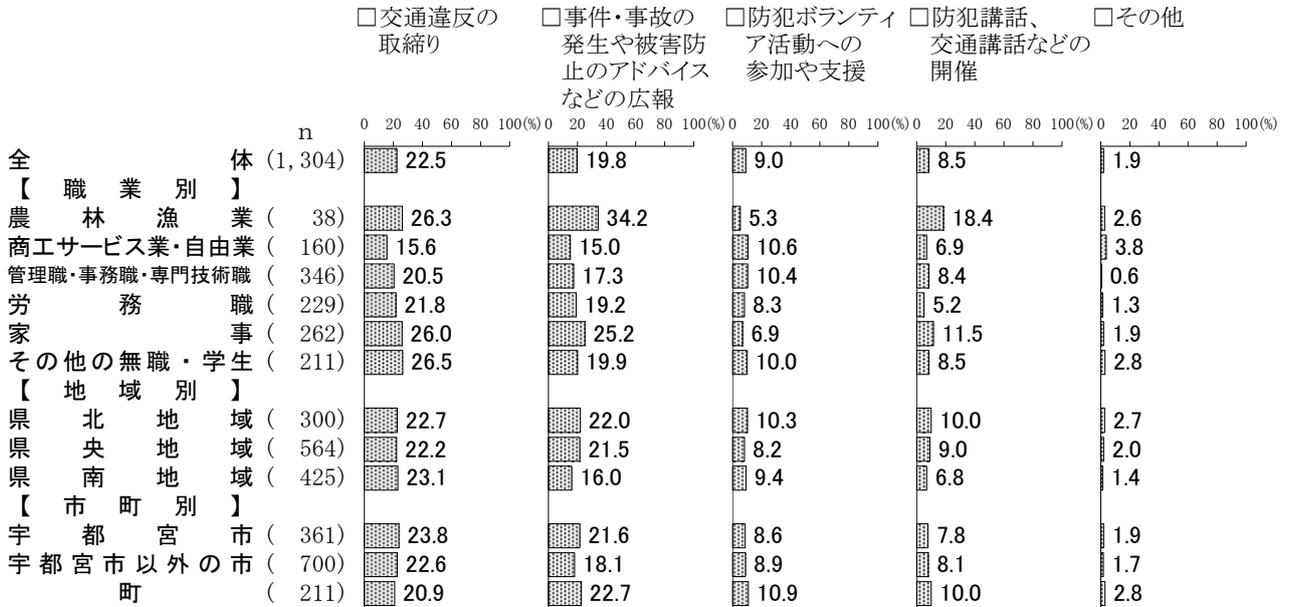
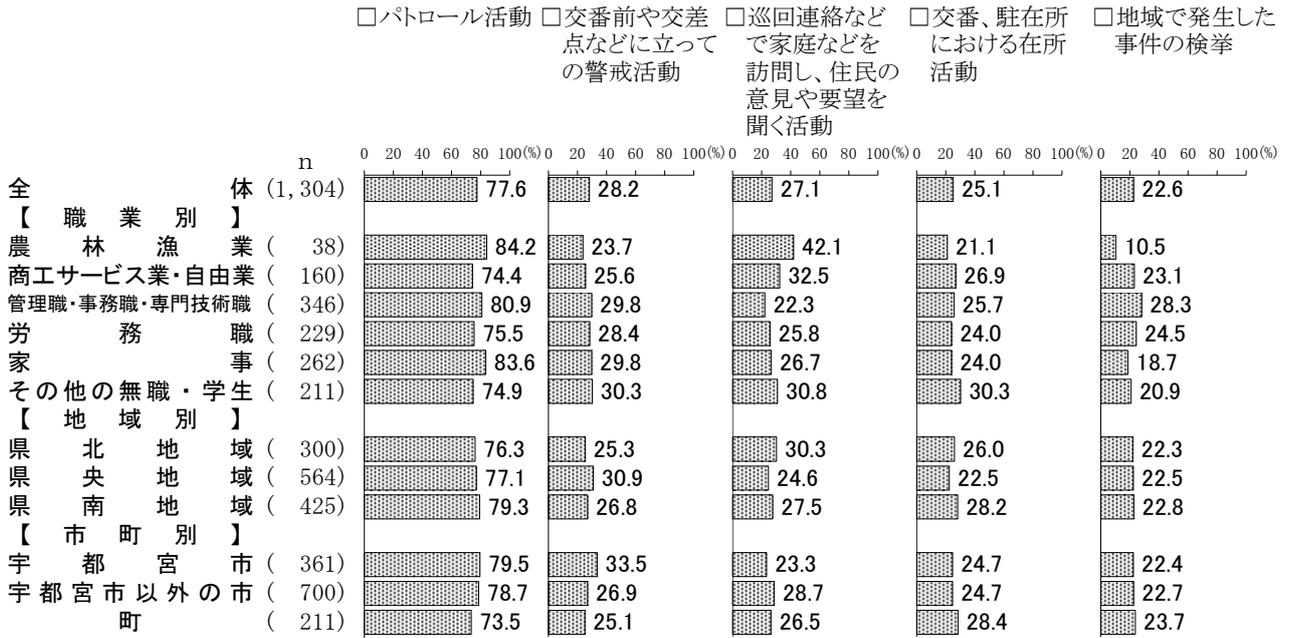
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(33.6%)が〈女性〉(21.7%)より11.9ポイント高くなっている。「パトロール活動」では〈女性〉(81.6%)が〈男性〉(75.6%)より6.0ポイント高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性〉(28.5%)が〈女性〉(22.7%)より5.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が41.2%と高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性50歳代〉が36.2%と高くなっている。「地域で発生した事件の検挙」では〈女性20歳代〉が32.8%と高くなっている。「交通違反の取締り」では〈女性70歳以上〉が32.7%、〈男性20歳代〉が31.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈農林漁業〉が42.1%と高くなっている。「事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報」では〈農林漁業〉が34.2%と高くなっている。

地域別でみると、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」では〈県央地域〉が30.9%と高くなっている。「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈県北地域〉が30.3%と高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈県南地域〉が28.2%と高くなっている。

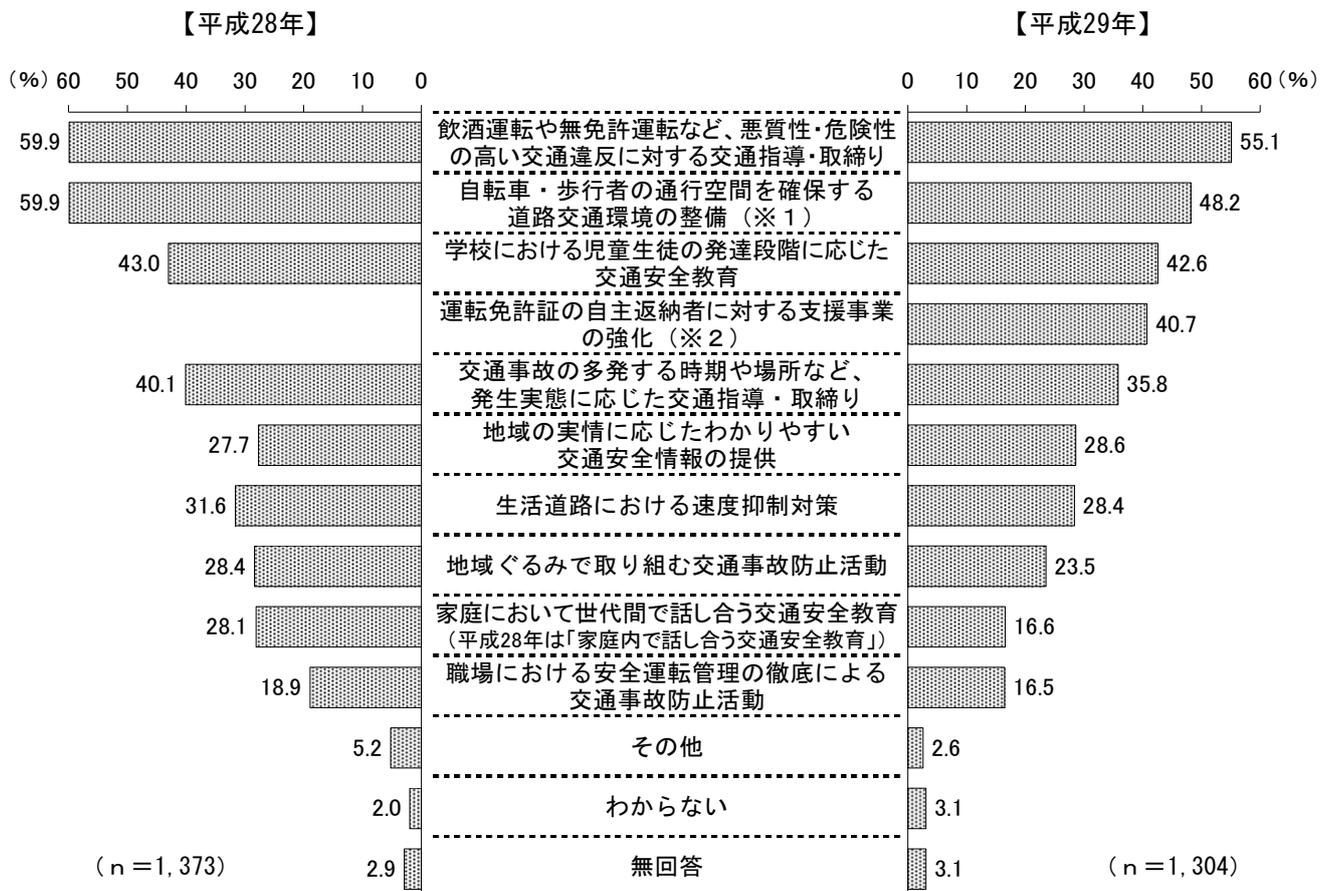
市町別でみると、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」では〈宇都宮市〉が33.5%と高くなっている。

(4) 交通事故を抑止するための対策

問35 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,304]

1	地域の実情に応じたわかりやすい交通安全情報の提供	28.6%
2	地域ぐるみで取り組む交通事故防止活動	23.5
3	家庭において世代間で話し合う交通安全教育	16.6
4	学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育	42.6
5	職場における安全運転管理の徹底による交通事故防止活動	16.5
6	生活道路における速度抑制対策	28.4
7	飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り	55.1
8	交通事故の多発する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り	35.8
9	運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化	40.7
10	自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備	48.2
11	その他	2.6
12	わからない	3.1
	(無回答)	3.1



(※1) 「自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」の選択肢は、平成28年では「歩道や自転車通行帯など、自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」としていた。

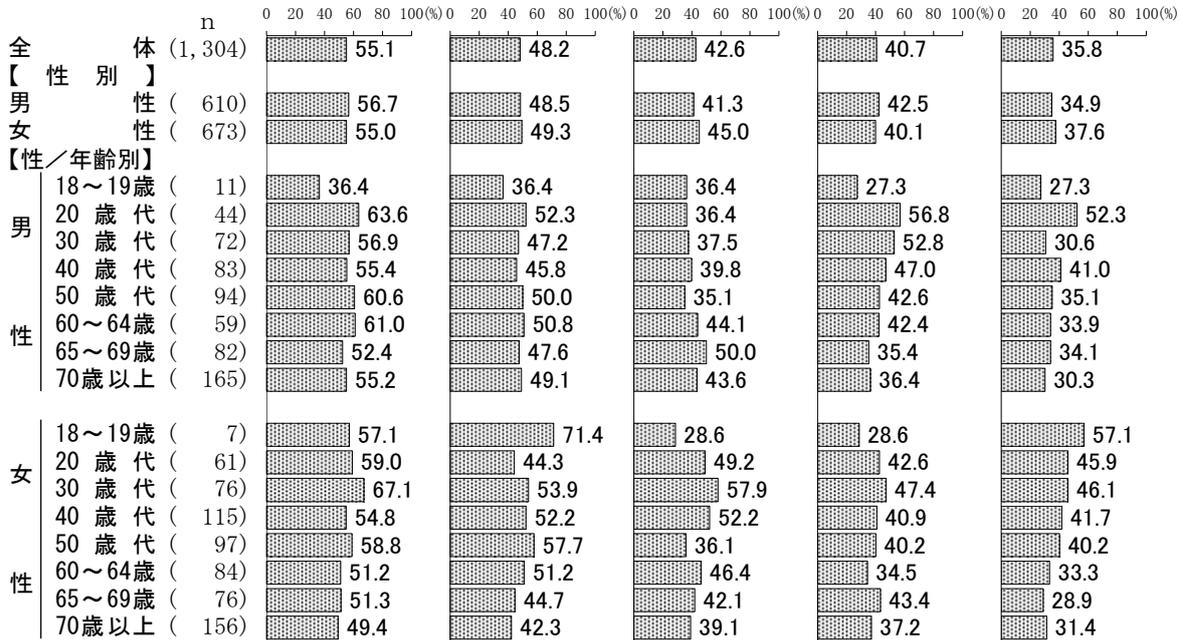
(※2) 「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」の選択肢は、今回調査で追加した選択肢である。

全体でみると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」(55.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」(48.2%)、「学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育」(42.6%)、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」(40.7%)、「交通事故の多発する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り」(35.8%)の順となっている。

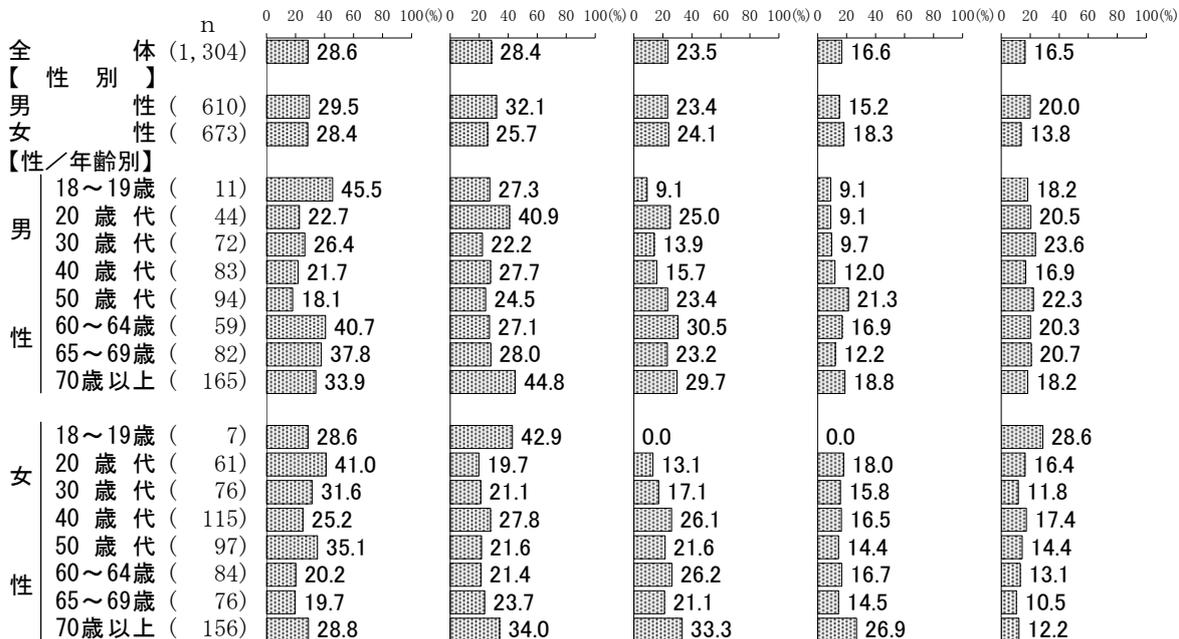
前回(平成28年)の調査結果との比較は、一部の選択肢が追加・変更されているため参考にとどまるが、上位3項目に大きな変化はみられない。また、今回調査で新たに選択肢に追加された「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」は、4割を超えている。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)

- 飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り
- 自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備
- 学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育
- 運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化
- 交通事故の多発する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り



- 地域の実情に応じたわかりやすい交通安全情報の提供
- 生活道路における速度抑制対策
- 地域ぐるみで取り組む交通事故防止活動
- 家庭において世代間で話し合う交通安全教育
- 職場における安全運転管理の徹底による交通事故防止活動

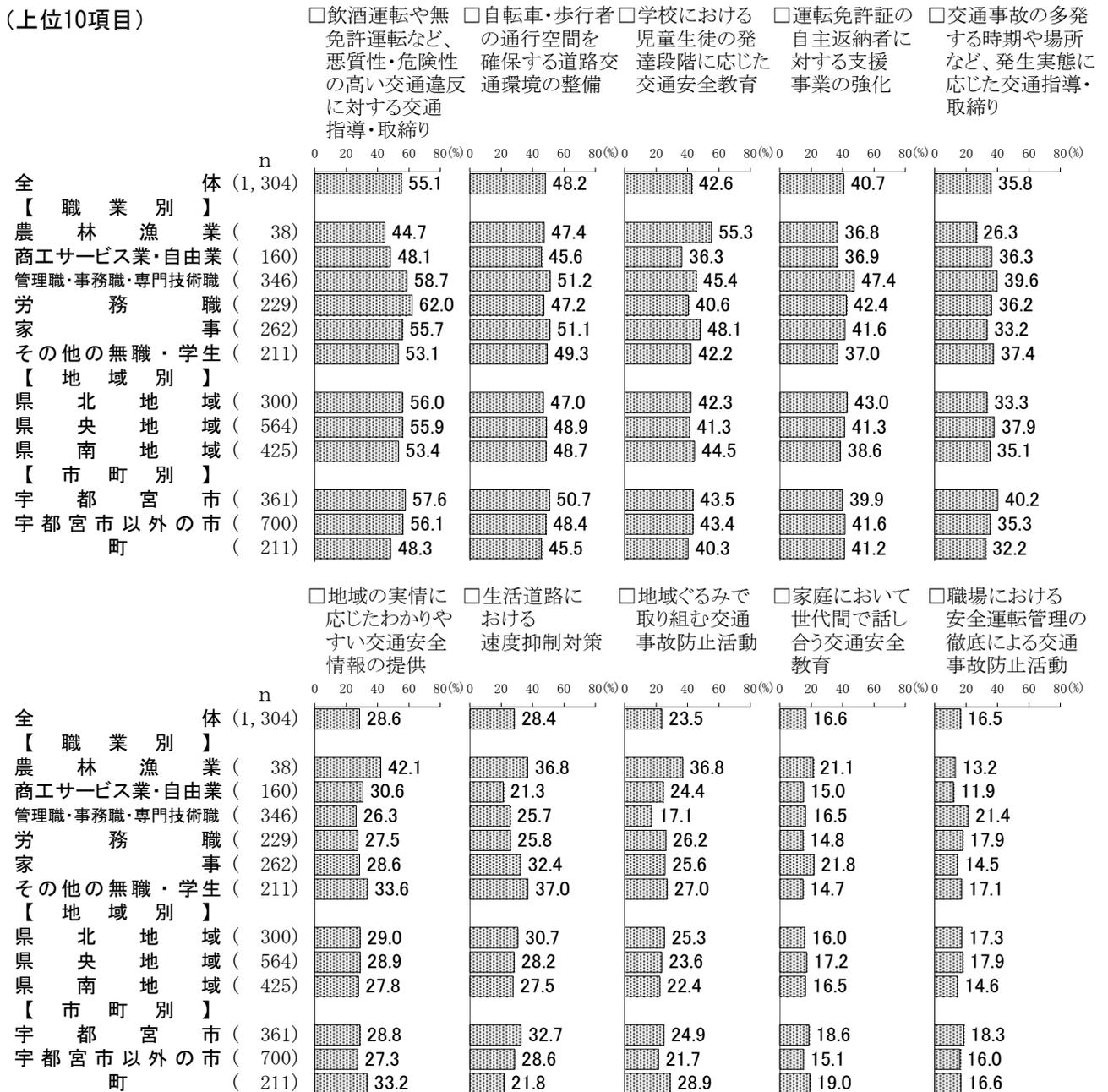


性別でみると、「生活道路における速度抑制対策」では〈男性〉(32.1%)が〈女性〉(25.7%)より6.4ポイント高くなっている。「職場における安全運転管理の徹底による交通事故防止活動」では〈男性〉(20.0%)が〈女性〉(13.8%)より6.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」では〈女性30歳代〉が67.1%と高くなっている。「自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」では〈女性50歳代〉が57.7%と高くなっている。「学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育」では〈女性30歳代〉が57.9%と高くなっている。「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈男性20歳代〉が56.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」では〈労務職〉が62.0%と高くなっている。「学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育」では〈農林漁業〉が55.3%と高くなっている。「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が47.4%と高くなっている。「地域の実情に応じたわかりやすい交通安全情報の提供」では〈農林漁業〉が42.1%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「交通事故の多发する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り」では〈宇都宮市〉が40.2%と高くなっている。「地域の実情に応じたわかりやすい交通安全情報の提供」では〈町〉が33.2%と高くなっている。「生活道路における速度抑制対策」では〈宇都宮市〉が32.7%と高くなっている。「地域ぐるみで取り組む交通事故防止活動」では〈町〉が28.9%と高くなっている。